

當世をじ草

凡世の中ふ人々極めて嫌ふ虫獸を見ても孝親の教とあると何り去る櫓船をいふ鼠の數次第を増して大お損失せり時おれ家の主人言けしやう何卒して此鼠残らず掃除せよん此上何程の損失計り難し速に鼠おや成用

若者へ
申付ケ
をまひ其夜はつと一匹も駈げ主人大に喜び



ある時東京より横濱へ酒數千樽船は積行と何り船中俄に鼠の數ふえて船の食物を喰ひ道具は疵付害とあると甚しをまひ船頭共大に怒りよき折を得て獵尽さんと船を走らせ横濱に着けし船頭の手段にて船底は硫黄と燃えれば煙は堪へ魚所々の穴より逃出す鼠を打殺せり後に残りて一疋の鼠其背は親鼠と負ふて小舟の上へ逃出さんとせし船頭亦是と異み見れば背にある鼠の白き毛何り眼を見えざる老鼠をいへん此鼠の若き鼠の親船頭とて忽ち慈悲の心を生じ惡き鼠を殺し其親も孝行と盡すと有るを見し二匹とを助け其場を逃し何りな成

澤水主人誌

應永
年
亥
也
お



下
上
金
板

0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 30 1 2 3 4 5 6 7 8 9 40 1 2 3 4 5 6 7 8 9 50 1 2 3 4 5 6 7 8

當世をし草

凡世の中ふ人々極めて熾ふ虫獸を見ても孝親の教とあるとけり去る櫓船など小鼠の數次第も増して大に損失せり時ふ此家の主人言けしや何卒して此鼠残らず掃除せんと此上何程の損失計り難し速に鼠かや成用

若者へ申付ケ
 そまは其夜はつと一匹も騷げ主人大に喜び



下金板



ちるか或時東京より横濱へ酒數千樽
 船に積行と有り船中俄に鼠の數ふまで
 船の食物を喰ひ道具は疵付害とあり甚し
 左に船頭共大に怒りよき折を得て獵尽さんと
 船をせんく横濱に着けしに船頭の手段にて船底は
 硫黄と燃され煙は堪へ魚所々の穴より逃出す鼠を
 打殺せしが後は残りて一疋の鼠其背は親鼠と負ふて
 小窟の上へ逃出さんとせし船頭小是と異み
 見れば背もある鼠は白き毛有り眼を見えざる
 老鼠をいへん此鼠は若き鼠の親かやとて
 忽ち慈悲の心を生じ惡き鼠を殺とも其親を
 孝行と盡すと有さぬ故見せば二匹とも助け
 て其場を逃しありと伝

澤水主人誌

應永
 東海堂

